



山陽小野田市

SANYO-ONODA CITY

「地域力・学校力・家庭力」の向上

CSアンケート調査等から山陽小野田市の地域連携教育の「課題」が明らかになりました。この課題解決に向けて、今後も、学校・家庭・地域が連携・協働し、コミュニティ・スクールと地域教育協議会の両輪を生かすことが大切です。そして、「地域力・学校力・家庭力」を最大限引き出し、持続可能な学校づくり・地域づくりへとつなげ、活力と笑顔あふれるまち「スマイルシティ山陽小野田市」の実現を目指して推進していきましょう。

地域連携教育エリアアドバイザー 佐々木 宏志



山陽小野田市の推進構想

山陽小野田市の推進構想

山陽小野田市では、平成20年度から主に学校支援の活動を中心とした地域教育協議会が母体である「学校支援地域本部事業」をスタートしました。当初は市内8小・中学校での実施でしたが、平成24年度から、市内全小・中学校でこの事業に取り組み、地域が学校の応援団として、様々な学校支援を行い、学校教育の充実を図ってきました。そして、平成28年度から、市内の小・中学校全てがコミュニティ・スクールとなりました。各学校・各地域で根付いてきた、学校支援地域本部事業(地域教育協議会)の仕組みを土台として、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の仕組みを導入しました。本市では、「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト!」と銘打って、学校づくり、地域づくりの両視点から、地域ぐるみで子どもたちの学びを支える取組を推進しています。

「地域力・学校力・家庭力向上プロジェクト!」の仕組みとして、学校支援地域本部事業とコミュニティ・スクールを一体化させるために、全教職員が参加する地域教育協議会(学校支援地域本部の会議)で策定した「学校・家庭・地域の連携に関する基本方針」を、学校運営協議会で承認を得る形をとっています。

以前は、教頭と地域コーディネーターが打合せを行い、学校支援の取組を進めていました。プロジェクト開始後は、全教職員と地域教育協議会委員が、知の部会、徳の部会、体の各部会に所属し、学校課題や地域課題、めざす子ども像を共有する取組が始まったことで、学校支援や地域貢献における取組が充実してきています。

また、各小学校区に設置されている公民館の館長を第2コーディネーターに位置付け、地域コーディネーターと共に、地域と学校、家庭の連携強化を図っています。

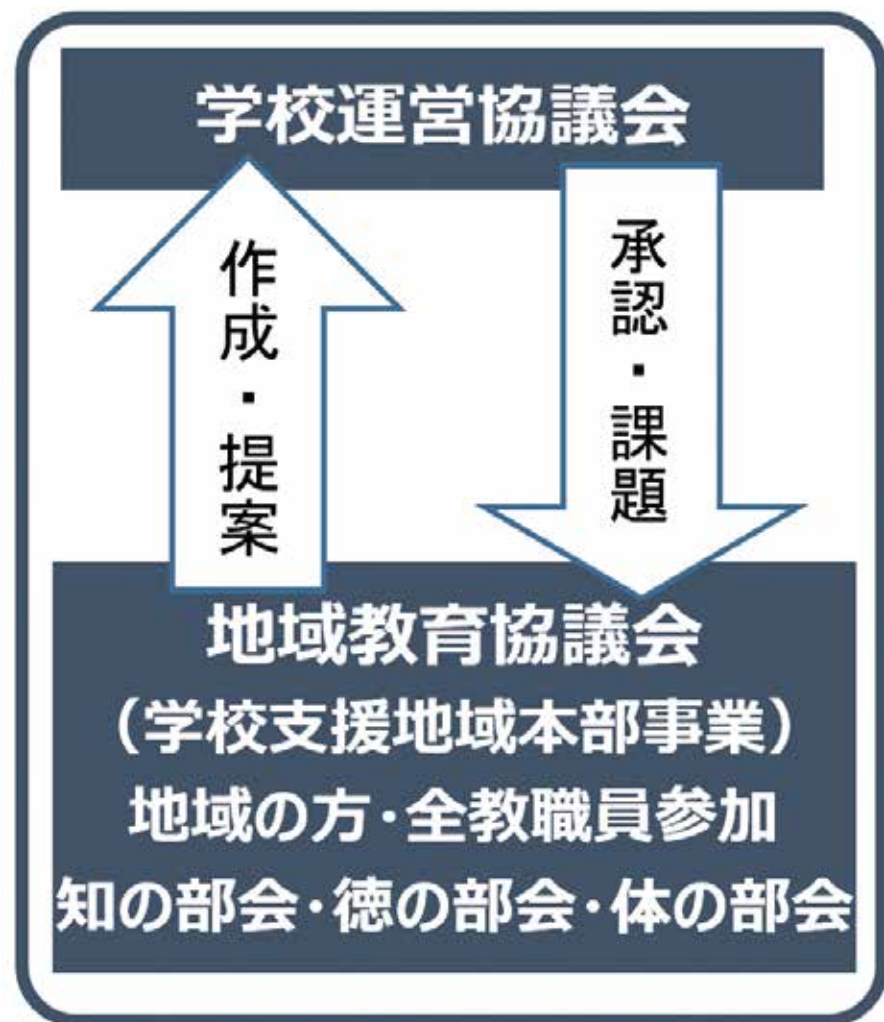
6月に行われた第1回山陽小野田市地域連携教育戦略会議において、「やまぐち型地域連携教育の取組による成果検証に係る調査」から、県と本市の実態比較を行いました。児童生徒に関する調査では、大部分の項目で肯定的な評価でした。学校運営協議会委員、地域住民や保護者に関する調査では、「学校運営協議会と学校の協働」、「地域行事への参加」、「子どもの地域への関心の度合い」について、肯定的な評価が県と比較して低い状況でした。

「学校運営協議会で学校運営についての協議がしっかりとされているか」、「児童生徒が主体的に地域貢献活動を行っているのか」の2点を課題とし、改善が見られるよう活動の充実を図っていきます。

『「地域力・学校力・家庭力」の向上プロジェクトの充実』

山陽小野田市教育委員会スクールアドバイザー 松浦 美彦

本市は、もともと学校支援地域本部事業が盛んであり、「地域教育協議会」を中心に、地域が学校を支援する取組が行われており、学校運営協議会との一体的な組織づくりができています。また、全ての公民館長を第2コーディネーターと位置づけ、小中学校と連携した取組が盛んに行われている。これからは「学校支援」や「地域貢献」により、多くの子どもや保護者、教職員や地域住民が参加できる取組や手立てを進めていき、本市のテーマである「地域力・学校力・家庭力」の向上・発展につなげていきたい。



『THE 殖生学』～生徒・地域によるふるさと学習から～

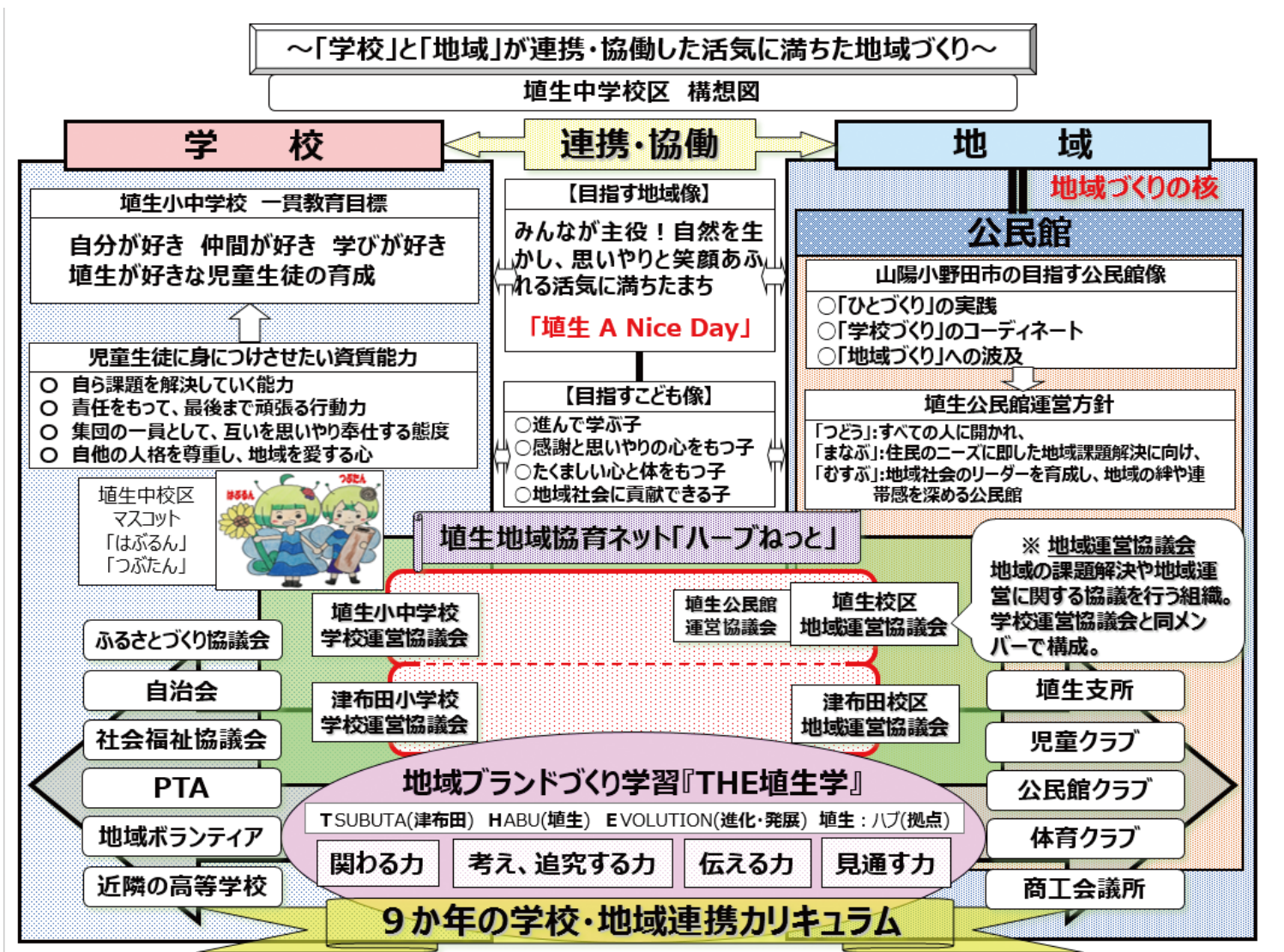
【会場:殖生中学校】

右の図は、「地域とともにある学校づくり」「学校を核とした地域づくり」を進めるための構想図です。学校と地域をつなぐツールの1つとして、学校・地域連携カリキュラムの柱を、地域ブランドづくり学習「THE殖生学」として実施しています。

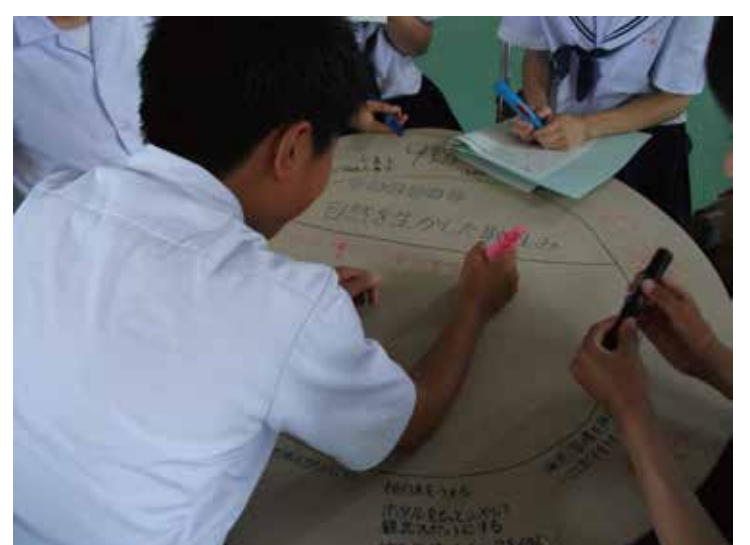
この学習を中心に、学びによる人づくりや地域づくりを循環させることをねらいとしています。

【写真1】は、ハーブねっと本部会議の様子です。小・中学校の校長先生や地域コーディネーター、公民館長、学校運営協議会等が出席し、「THE殖生学」の内容協議はもちろん、中学校区での学校と地域の連携・協働の理想の姿についての熟議が行われます。

【写真2】は、めざす子ども像や地域像を生徒(1,2年生)と地域の方が膝を突き合わせ、地域の課題やその解決に向けた取組について考えた「THE殖生学」の様子です。



【写真1】



【写真2】

『地域ぐるみの防災キャンプ』

～地域連携教育の仕組みを生かした災害対応訓練～

【会場:須恵小学校】

児童生徒が災害発生時において、正しい知識をもとに的確に状況を判断し、自ら行動することはもとより、他の人や社会に貢献できる心と実践力を育成するため、小・中学校、地域、保護者、教育委員会や危機管理室などの関係機関が合同で、避難所生活を想定した宿泊体験や救急救命訓練などを含む総合的な体験学習を実施しました。段ボールを使った寝床づくりや備蓄食料を使った食事など、様々な体験をすることで、災害発生時の正しい判断や安全な行動の仕方について地域の人と一緒に学びました。



山陽小野田市立高千帆小学校(会場)、有帆小学校、高泊小学校、高千帆中学校

学校運営に係る取組



高千帆中学校区合同学校運営協議会

中学校区4校の全教職員と全学校運営協議会委員、育友会が一堂に会し、合同学校運営協議会を開催した。「ふるさと高千帆から未来へ」をキーワードに、知・徳・体の部会で熟議を行った。

山陽小野田市立高泊小学校

学校運営に係る取組



ユニット型研修

7月に学校と地域合同で、ユニット型研修を行った。4年生の外国語活動を参観してもらうことで、小学校英語について知っていただく機会になった。地域の方からは、児童がいきいきと活動する姿が印象的だと好評だった。

山陽小野田市立小野田小学校

学校支援に係る取組



はなまる子育てサロン

はなまるクラブは、様々な活動をとおして学校生活を支えている。子育ての悩みを気軽に相談できるサロンは、毎回多くの参加者で盛り上がる。

山陽小野田市立高千帆中学校

学校支援に係る取組



親子たかちゅう土曜教室

地域の方とふれあいながら学ぶ機会の提供として、「たかちゅう土曜教室」を毎月1回開催している。地域、保護者、生徒と一緒に活動することを目的に、今年度、親子で参加できる日を設けた。

山陽小野田市立厚狭中学校

学校支援に係る取組



厚狭人ダイアログ

3年生を対象に、自身の人生観を育むための動機付けとなるキャリア教育プログラムを実施した。「厚狭の子が将来地元を選ぶための種まき」という趣旨のもと大学生や若い社会人、地元の大人と一緒に小グループの中で人生について本音で語り合った。

山陽小野田市立本山小学校

地域貢献に係る取組



アサギマダラおいでませ作戦

竜王山に自生している「ヒヨドリバナ」を目指して飛来してくるアサギマダラ。学校の花壇だけではなく、竜王山にも「ヒヨドリバナ」を植え、秋にアサギマダラがたくさん飛来するように願い地域の方とともに苗植えを行った。

山陽小野田市立出合小学校

地域貢献に係る取組



感謝の気持ちをこめて ～花のプレゼント～

年度末、地域の公共機関に花のプレゼントを届けた。この花は「地域の皆さんに楽しんでもらうため、全校児童と栗田ひだまりの会の皆様が一緒に育ててきた花プランター」である。

山陽小野田市立小野田中学校

地域貢献に係る取組



校外でのボランティア活動

有志の生徒で結成する「小中ふれあい隊」で、毎月一回小野田老人ホームを訪問し、寝具の交換や部屋の清掃を行いながら、職員や利用者の方々と交流を深めている。